

5期生の浅利集さんから貴重な写真と、文章が寄せられましたのでご紹介します。

（「アバはなぜアバか？」の筆者）



● テレビドラマ「あさが来た」を見ながら、私が見聞した範囲ですが村の文明開化のの出来事を記してみました。

明治政府が本格的に動き出すのが明治四年からで、八年には小学校が高屋のお寺を間借りして開校が始まります。当時は三年生で卒業。農業・林業・羊飼いで子守り・養蚕業のお手伝いをしました。

松葉では、上杉修二屋敷内に製糸工場跡（群馬の富岡製糸工場の小規模な工場）があり、経営していたようです。景気が良かったみえて、ダットサン乗用車が工場の片隅にありました。

吉田では、営林署を中心に杉の苗木の育成と植林が行われたようです。浅利小市郎家では、製材及び廃材を使ってお盆やお椀を作っていた跡がありました。

浅利佳一郎家の曾祖父、官軍數十名が松木内川を上り大覚野を越え、鷹巣に至る行軍に一泊の宿を提供した。そのお札に政府から郵便事業の免許を得て資産を投資しての事業に乗り出す。当時玉川にダム（ミノモンタの祖父が係わる）を建設する。現場との電話連絡で檜木内郵便局経由が利用されたようです。ダムの水は、仙北平野を潤すことになりました。電話の加入率も良かったようです。小滝の田代家祖父は、写真屋で出張してフラッシュを燃やしての

撮影でした。皆さんの家のアルバムに出征兵士を送った時の写真が残っていると思います。山奥の村であります。先輩たちが時代に乗り遅れないように努力されました。特に子供の教育には熱心な村でありました。そこに育った私達四期生の修学旅行は、秋田市。魁新聞は「山猿の修学旅行」と揶揄した記事を書かせたりしましたが、大都会の荒波に揉まれながらも、沈むことなく人生の終末を輝いて迎えるようとしています。諸先輩の霊に乾杯・故郷に乾杯。



● 吉田集落の杉の苗木の「苗圃」。今の体育館の近辺。撮影年月日不明。苗木育成に係わった”あねっこ”達。右上の男性は浅利集氏のお父さん。大木は桂の木では。（小林）

写真提供・浅利集氏

● 浅利集氏の文章を頂く中で、偶然ですが、小林の義母(酒田市出身)の遺品の一つに「庄内戊辰の役」という分厚い本があり、何気なくページをめくっていたら何と「秋田戦争」の庄内藩から見た史実がビッシリ。その中で戊辰(明治元年)6月頃、西軍(官軍)が、恭順を表明している会津と庄内を撃つと奥羽諸藩に命令します。しかし、余りの理不尽に、逆に奥羽越列藩同盟が結成され、鎮撫使の沢為量副総督と大山格之助参謀一行が、逆に命からがら新庄から、官軍に寝返った秋田に落ち延びた。その時に「松木内の浅利家」に1泊したと思われる。浅利集氏によれば、人数が多いため山口の浅利家と二手に分かれて宿泊と言われてますが、吉田の浅利家には沢副総督、山口の浅利家には大山格之助参謀が宿泊したと思われる。この後阿仁・鷹巣を経て秋田市で鎮撫使の指導部が息を吹き返し、壮絶な秋田戦争がおこり、大曲や角館、刈和野、角間川などが戦場となる。尚、生保内も一部戦場となり双方合わせここでは五人の死者を出す。(小林建朗)



● 村の「インテリジェント達」昭和元年頃、場所は旧「川口旅館」か？真ん中の恰幅のいい男性は浅利小市郎氏では。(小林) 写真提供 浅利集氏

● 関東地区松木同窓会維持の寄付金にご協力下さい。★本同窓会の運営は、事業収入や寄付金などでまかなっています。皆様厳しい経済状況とは存じますが、可能なご協力をお願いする次第です。金額は、1000円単位の任意の額で結構です。(3万円以内は130円の手数料です) 加入者名・関東地区松木内中学校同窓会 口座番号・00160-2-496900

我が家の味噌 NPO法人 えがったなあ 地元産の材料で造る 無添加手作り味噌 ①1Kg入り 500円 (送料別途) ②10kg以上は桶・樽 対応 販売代理店・前田商店 ☎0187-48-2351FAX兼



火縄銃 (年代は不明)



槍 (年代は不明)

◆ 近々、山梨県の大月市にある「浅利地域」訪問予定 銃を紹介いたします。 われている浅利勝五郎氏の御実家に伝わる先祖伝来の槍と火縄銃を紹介いたします。

● 「若あゆ」四号で浅利氏のルーツのさわりを掲載しましたが、膨大な量で、中世までさかのぼり、我々素人には無理と思っていました。が、「浅利氏」は松木内では、親類も含めれば、八割方の方が係わりを持つていないのではないのでしょうか。どこまで真実に近づけるか分かりませんが、みんなわかる範囲で調べるとも面白くありませんか。本同窓会として話題提供の意味もこめて「若あゆ」に掲載していきたいと思えます。 最初は、中里の浅利本家と言われている浅利勝五郎氏の御実家に伝わる先祖伝来の槍と火縄銃を紹介いたします。

再び「浅利氏」のルーツを辿る